ガメラ対大悪獣ギロン（1969）

GAMMERA VS GUIRON

メディア 映画
ジャンル ファミリー　特撮
製作国　日本
色彩　Color
時間　82分
初公開日 1969/03/21
公開情報 大映

【解説】
　無人の宇宙船に乗り込んだ明夫とトムは、そのまま宇宙空間へと連れさられる。途中いん石との衝突をガメラに救われた２人がたどりついたのは、地球からはちょうど太陽の反対側に位置する第１０惑星テラであった。 無人のテラでは宇宙ギャオスが破壊を繰り広げていたが、そこに未知の怪獣が現れ、見る間にギャオスを八つ裂きにしてしまう。大悪獣ギロンである。バーベラとフローベラと名乗る２人のテラ人から、この星にはかつて自然現象すら自在に操れる高度な文明がありながら、コンピューターのちょっとした故障から都市はほろび、制御できなくなった怪獣達が飛び廻る世界となっていることを知る。そして唯一残された宇宙基地もあと５時間で氷河に覆われるという。２人のテラ人と一緒に地球に帰れると思い込む明夫とトム。しかし宇宙船は２人乗りの上、テラ人達は地球で生きていく知識を得るために子供達の脳を密かに狙っていたのだ。睡眠薬で眠らされた２人に危機が迫る。その時とうとうガメラがやってきた。催眠術で明夫からガメラのことを聞きだしていたテラ人は、自分達の意のままになる唯一の怪獣ギロンを向かわせた。ギロンの強力な刃はガメラの甲羅さえ破り、頭から飛び出す手裏剣でダメージを受けたガメラはそのままテラの海深く沈んでいったが……。
　ガメラシリーズ第５作。前作、ガメラ対宇宙怪獣バイラスからはじまった“子供の味方路線”は更に強固になり、この作品ではガメラが２人の子供を救うために宇宙のかなたにまでやってくる。作品として目立つのは登場人物が少ない点。冒頭と終わりのシーンを除くと、テラでのシーンは２人の子供とテラ人だけ、サイドストーリーとなる地球でも２人の母親と妹そして大村崑演じる駐在さんの４人だけで作られている。当時、子供受けを狙って怪獣に愛敬のある動作をさせるのが流行したが（ゴジラの“シェー！”がその代表）、この作品のガメラも踊ったり鉄棒をしたりという演技をしている。その一方、ギロンが宇宙ギャオスを倒す場面では、片脚と片翼を切られて地上に落下したギャオスに対して、まずはもう一方の翼を切断し身動きを取れなくしておいてから、首を跳ね胴体をズン胴切りにするという、今の放送コードでは到底ＴＶで流せそうもない残虐なシーンも入っている。画面はギャオスまでと比べると格段に明るくなっているが、廃虚となった都市での戦闘シーンは今にして見ると不気味さを覚える。そして主人公が天文好きの少年で、ストーリーも彼らが宇宙船に乗って行った別の星での出来事というのも、アポロ計画がまさに月を目指し、大人も子供も宇宙に思いを巡らしていた当時の時代背景ならではといえよう。

【登場怪獣】ガメラ／ギロン／宇宙ギャオス

【クレジット】
監督　湯浅憲明
製作　永田雅一
企画　仲野和正
脚本　高橋二三
撮影　喜多崎晃
美術　井上章

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています 。
データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。　Copyright (C) 2026 Stingray. All Rights Reserved.

編集	宮崎善行		
音響効果	小島明		
音楽	菊池俊輔		
特技・美術	矢野友久		
特技・合成	金子友三		
特殊撮影	藤井和文		
特技・操演	金子芳夫		
出演	加島信博		明夫
	秋山みゆき		友子（明夫の妹）
	クリストファー・マーフィ	Christopher Murphy	トム
	笠原玲子		フローベラ（第１０惑星テラ人）
	甲斐弘子		バーベラ（第１０惑星テラ人）
	大村崑		近藤巡査
	イーデス・ハンソン	Edith Hanson	エルガ（トムの母）
	浜田ゆう子		邦子（明夫の母）
	船越英二		志賀博士（天文台所長）
	夏木章		新聞記者
	中田勉		新聞記者

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています 。
データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。 Copyright (C) 2026 Stingray. All Rights Reserved.